

1. 教育の責任

国内の社会課題は主に人口減少・高齢化社会の進展から生じています。地方だけでなく都市部を含む日本社会全体において、少子高齢化時代に対応した新しい取り組みが求められています。こうした時代に、人口が減少してもこれまで日本が築き上げてきた安心安全な社会基盤を維持しながら、活気のある豊かな社会運営するには、自分たち世代は何をすればよいかを考えられる若い世代を輩出することが責任と考えています。教育は、日本社会の次世代への継承策でもあるとも考えているからです。

2. 教育の理念

本学の現代社会学部では、新たな社会創造に活かす学びとして、社会の仕組みを理解すること、その変化と活用に重点をおいています。その上で、人の心と行動から社会を学ぶ体制が各専攻で構築されており、多様な学びを得られることが特徴的です。様々な社会課題に触れる機会が多くあるのは良いことで、その良さを生かして、偏見のなく社会をとらえて、自分の意見や考えを具体的に表現できること、説明できること、理想を描けることを重視した教育を実施することが必要と考えて実施しています。

3. 教育の方法教育の目的と目標

社会課題は複雑で多様化している。学びのリアリティを高めるために、実際の社会問題の実例に触れながら、学びと現実社会を結びつける工夫をします。社会のセーフティネットが行き届くごとに、社会問題が自分ごとから他人ごとになる傾向もあるため、社会の基本的な制度を学びに取り入れるようにしています。学生に求めることは、若い感性を生かして、これからの社会に立ち向かうこと、その対応策を考えられること、つまり、ユニークなアイデアや発想をもってもらうことです。そのため、講義では、意見交換を従事してグループワークも取り入れます。地方では、これから大都市圏で課題となる少子高齢化の進展による社会問題を多く経験しています。また、観光誘客や定住促進、交流人口及び関係人口の増加のための施策、ふるさと納税事業の推進などの地域活性化策に取り組んでいることから、地方での様々な取り組みに目を向け、アイデアセンスを磨いてほしいと考えています。さらに、社会を知ることについて、バランスのある視点と意識が身につくよう、福祉視点からの社会の見方、高齢化社会への考えや健康寿命の延伸、子育て支援や少子化対策、公共交通運営、ITを活用など教員の実務実績を踏まえた講義により社会を広く知ること、どこかの分野に自身の役割を発見し、活動チャンスに気づいてほしいです。また、学生の方々の発想が、地域社会や現場でのヒントになるよう、社会と授業をつなげる工夫をし、学校授業のリアリティを高めるためにフィールドワークも取り入れていきます。これらのことにより、人口が減少しても、人々の活気がある社会であること、新しいことを考え付き行動に移せること、そして、豊かな社会の維持をできる教育を実践します。

4. 教育の成果

例として、コミュニティデザイン論では地域運営から福祉、観光まで幅広い講義を実施しましたが、実例を用いる中で、自身が社会人として責務である「国民年金」への加入の必要性を理解すること、制度がもたらす他人事意識、廃校活用までの経緯から、地域内での動きを知り、公共系での勤務を志望する学生が出てきたことはうれしいことでした。政策入門論では、実例を用いてルールがもたらす社会の変容を考えました。そのほか、政策ニュースとして話題に上がっているガソリン暫定減税の詳細を説明するなどして、学生の社会への関心を引き出し、深めることができました。

5. 改善への努力と今後の目標

学生の考えやアイデアが実際に行動にできる場を創出できるようにしたいと考えています。大学は、自分たちの考えたことを試せる場であれば、大学はさらに楽しい場になるため。また、受講学生との関係性ができるよう対話をできる時間を意識してつようにし、学生の意見が表現しやすくなる工夫をします。

【添付資料】

講義シラバス、授業アンケート結果

授業開講年度	2025	開講キャンパス	さくら夙川キャンパス
開講学期	春学期	開講曜日・時限	火曜4限
科目コード	ZG0470	授業コード	40293
レベルナンバー	300	配当年次	カリキュラムにより異なります。
授業科目名	観光モビリティ論		
担当教員名【代表】	鈴木 朋美		
担当教員名			
授業形態	講義		
授業方法	対面授業		
単位数	2.0		
ディプロマポイント評価観点(※本科目がどの項目に該当しているかを示す)			
Knowing			
(知識とリテラシー)	教養と専門知識【DP1】	○	知識・情報を活用する力【DP2】
Doing			
(実践力)	国際感覚【DP3】		対人基礎力【DP4】
	対自己基礎力【DP5】		対課題基礎力【DP6】
Being			
(信念と志)	豊かな人間性と肯定的自己概念【DP7】		社会的責任【DP8】
授業の目的	運輸業は、日常生活や観光行動に不可欠な産業です。人口動態や経済活動に大きく関わりがあり、地域活性化のカギを握るものでもあります。交通機関は、利用客増加を図るために様々な取り組みを講じており、また、自治体でも交通機関との連携による地域活性に取り組み観光振興に取り組んでいます。交通機関の現状と課題を把握し、インバウンド、人口減少・高齢化等の社会背景も含めて今後の運輸業について考察する基本知識を学びます。		
到達目標	交通機関ごとの現状や課題が整理して説明できる。 交通機関がもたらす地域活性化、人流活性化を理解し、人口減少が進展する時代における交通機関のあり方を考案する着眼点を身に着ける。		
授業概要	観光行動をスムーズにすることと、交通条件の整備は大いに関係があります。アクセス、乗り継ぎ、駅・ターミナルの機能や地域連携等に交通機関は工夫した取り組みを行っています。人口減少や高齢化によって、運輸業では人材確保が困難となってきたり、地方では、減便や値上げ等がなされている状況があります。人が移動するためには交通機関は必須のものです。これから新時代のモビリティとはどのようにあるべきか、地方創生や国土交通省地域公共交通「リ・デザイン」事業推進も踏まえて、交通を取り巻く事象を理解して考察します。		
課題レポート等	各回授業内容に沿った課題を提示します		
フィードバックの方法について	レポートのフィードバック		
授業時間外学習	授業の予習・復習、レポート作成		
授業回数	主題	概要	授業時間外学習(学習内容・時間)
01	オリエンテーション	学習の進め方、身近な運輸業、モビリティ関連業についての把握を行います。	授業の進め方についての理解、運輸業に含まれる具体的企業の検索 【授業時間外学習時間2時間】
02	モビリティとは	運送・運輸とモビリティの違いを理解します。	運輸業の現状と課題の把握・各社情報収集 【授業時間外学習時間2時間】
03	航空運送業	国内・国際路線における旅客・貨物輸送の現状とその経営活動を理解します。	航空における旅客・貨物輸送の現状把握・各社情報収集と諸外国の状況との比較 【授業時間外学習時間2時間】
04	空港	日本と世界の空港の現状把握と比較により、国内空港施設運営の特徴や実態を理解します。また国内空港及び施設の課題対応について考えます。	国内各空港の運営実態調査・空港運営における課題の発見とその解決策の検討 【授業時間外学習時間：2時間】
05	航空業界の現状と各種取り組み	航空業界の変遷を理解し、航空会社のこれからの動きを考察します。	航空業界の歴史について把握・各社の取り組み等についての情報収集 【授業時間外学習時間：2時間】

06	鉄道事業①	日本の主要鉄道であるJRグループの変遷、とJRグループごとの地域的な特徴等の現状把握と今後の経営課題等について理解します。	JRグループ各社の現状及び課題把握と経営状況比較と要因考察 【授業時間外学習時間：2時間】
07	鉄道事業②	私鉄の運営状況や特徴把握と課題対応や利用活性の方策を理解します。	私鉄が走行する地域状況の把握や各社の旅客確保策の情報収集 【授業時間外学習時間：2時間】
08	駅・ターミナル	駅・ターミナルの利用や集客状況を把握し交通拠点が地域にもたらす活性化の波及効果等を考察します。	駅・ターミナルの役割を考察し、地域内外から見た拠点「場」の違いの整理 【授業時間外学習時間：2時間】
09	鉄道事業の維持・発展に向けた取り組み	鉄道事業者が抱える課題を理解し、その対応について考察します。	特に地方の鉄道事業に目を向け、人口減少・高齢化社会に向けた鉄道事業者の方策についての情報収集 【授業時間外学習時間：2時間】
10	バス・タクシー	バス・タクシー事業の変遷と、その産業構造の理解し、業界を取り巻く環境とその対応について考察します。	バス業界・タクシー業界各社の経営状況と課題の把握と事業存続に向けた取り組みの調査 【授業時間外学習時間：2時間】
11	船舶事業	船舶輸送についての変遷と現状を把握し、今後の利用活性化等にむけた将来展望を離島における観光振興を事例としながら考察します。	船舶輸送の課題と経済効果。クルーズ旅行の状況や船舶輸送が中心となっている地域の観光及び生活実態の情報収集 【授業時間外学習時間：2時間】
12	新交通システム	新交通としてグリーンスローモビリティやLRTなどを整備、導入している地域状況や利用実態を知り今後の展望を考察します。	LRTを整備導入した地域の情報収集（メリットや利用状況など） 【授業時間外学習時間：2時間】
13	地方創生とモビリティ①	都市部の交通課題対応を図る事例として日本MaaSを取り上げ、モビリティがもたらすライフスタイルやまちづくりの変化から都市の将来像を考察します。	地方創生事業及び地域公共交通計画の事例を調べる 【授業時間外学習：2時間】
14	地方創生とモビリティ②	地方部における交通課題を知り、公共交通等のモビリティが、縮小する地域の観光振興や豊かな暮らし創造のために、どうあればよいかをIoTやAI、MaaS等の事例や地方創生事業の実施状況を踏まえて理解します。	地方創生事業及び鉄道がない地方部の地域公共交通計画内容を調べる【授業時間外学習：2時間】
15	まとめ	これまでの学習の総括をします。	これまでの学習内容の総復習 【授業時間外学習時間：2時間】
成績評価の基準と方法		授業の総括として実施する理解度テスト（筆記）により60%、各授業への取り組み及び課題の提出・発表により40%とします。	
教科書		教科書は使用しません。配布資料で授業を進めます。	
参考図書		授業内で適宜紹介します。	
授業に関する質問等の方法		各授業の最初と最後に質疑時間を設けます。それ以外の時間は講師あてメールにて対応します。	
備考			
短大同時開講使用欄			

授業開講年度	2025	開講キャンパス	さくら夙川キャンパス
開講学期	春学期	開講曜日・時限	集中講義
科目コード	ZI0288	授業コード	40555
レベルナンバー	200	配当年次	カリキュラムにより異なります。
授業科目名	まちづくり論 (サマースクール)		
担当教員名【代表】	鈴木 朋美		
担当教員名			
授業形態	講義		
授業方法	対面授業		
単位数	2.0		
ディプロマポイント評価観点(※本科目がどの項目に該当しているかを示す)			
Knowing			
(知識とリテラシー)	教養と専門知識【DP1】	○	知識・情報を活用する力【DP2】
Doing			
(実践力)	国際感覚【DP3】		対人基礎力【DP4】
	対自己基礎力【DP5】		対課題基礎力【DP6】
Being			
(信念と志)	豊かな人間性と肯定的自己概念【DP7】		社会的責任【DP8】
授業の目的	行政のまちづくりに関する各種計画を事例に用いて、数値や用語など計画内容を理解する基本的知識を学びます。総合計画と各種計画の関係を整理し、また地域ごとの計画内容の比較をすることによって、まちづくり計画に描かれている地域の特徴や未来の姿を読み込めるようにします。フィールドワークにより、地域の人々がどのようにまちづくりや活性化に関わっているかを調査し、計画と実態の両面からまちづくりを考察できることを目的とします。		
到達目標	まちづくり計画から地域の実情と課題を把握できること。計画策定に使用する基本的な数値データの読み込みができること。総合計画と各種計画の関係や関連性を理解でき、自治体運営における各種計画連携の必要性を理解できること。まちづくり活動に携わる人々の話を聞き、実態を調べながら、良いところや課題を発見して、まちづくりへの考えを出してまとめられること。		
授業概要	自治体が策定する総合計画は最上位の計画で将来目標や施策が示されています。自治体では、観光、防災、福祉、医療・介護など、各分野でまちづくりに関係する計画を策定しているところもあります。そのため、計画内容は、自治体によって大きく異なります。まちづくり計画に関係する各種計画の内容や特徴も学習しながら、まちづくりに必要となる視点を整理してフィールドワークに臨みます。フィールドワークでは、活動の内容や実態についてヒヤリングします。その結果をグループワークで意見交換をしてまちづくりの考えをまとめます。		
課題レポート等	各回、授業内容に沿った課題を提示します。		
フィードバックの方法について	レポートへのフィードバック 授業発表時におけるコメント		
授業時間外学習	授業の予習・復習、関連資料の収集及び整理、レポート作成		
授業回数	主題	概要	授業時間外学習(学習内容・時間)
01	オリエンテーション	講義の進め方、行政のまちづくり計画に関係する分野や施策など、概要を説明します(人口、財政、産業、子育て、土地活用、企業誘致、観光、福祉など)	授業の復習(約1時間)
02	まちづくりの歴史	まちづくりの手法は時代とともに変化してきました。その変遷を学び、現在のまちづくりの特徴や課題を理解します。	授業の復習(1時間)
03	自治体の総合計画	自治体の総合計画の読み方を学びます。使用されているデータの読み方を理解します。自治体規模や立地種別で計画内容を比較して、方針や施策の違いが生じる背景や実情を考えます。計画策定や施策決定までのプロセス一連を学習します。	授業の復習(1時間)

04	誘客促進を図るまちづくり計画	観光振興計画の内容や施策を学び、総合計画との関連を理解します。どのような自治体が観光振興計画を策定しているのかを考えながら、地域間の計画内容の比較を行い、観光振興における取組の方針の特徴や違いを理解します。	授業の復習（1時間）
05	地域公共交通計画	人口減少の時代に入り、利用者の減少と人材不足により地域公共交通は厳しい状況となっています。交通事業者だけでなく地域の関係者が連携・協働（共創）し、地域ぐるみで支えていくとした地域公共交通計画は、まちづくり計画とどんな関係があるかを学習します。	授業の復習（1時間）
06	安全安心のための防災及び福祉のまちづくり計画	災害や非常事態で自治体の役割はとても重要です。防災まちづくり計画に様々な情報や対応が記載されています。計画内容から行政の危機管理や対応を方策を理解します。また、高齢化社会に対応するまちづくり計画として、高齢者福祉計画、介護保険事業計画、データヘルス計画、地域福祉計画などがあります。これらの内容についても学習し安心安全のまちづくりの概要を理解します。	授業の復習（約2時間）
07	未来に向かう少子化対策のまちづくり計画	出生数が減少し少子化が進行していることについて多くの自治体が課題を抱えています。子育て世代の支援や育児支援などが盛り込まれている子ども・子育て支援計画について理解します。	授業の復習（約1時間）
08	中心市街地活性化を図るまちづくり計画	暮らしに密接にかかわる中心市街地や商店街の活性化のためのまちづくり計画を学び、総合計画との関連を理解します。どのような自治体が中心市街地や商店街活性化の計画を策定しているのかを地域間比較を行い、取組方針の特徴や違いを理解します。	尼崎市各種計画内容を事前に閲覧しておくこと
09	フィールドワーク①	尼崎市杭瀬商店街フィールドワーク。 ゲストスピーカー（株式会社地域環境計画研究所 代表取締役 若狭健作氏）	授業の予習として、尼崎市都市再生整備計画及び杭瀬まちなか再生活性化事業の内容を学習し、気づいた点などをメモしておくこと（約3時間）
10	フィールドワーク②	尼崎市杭瀬商店街フィールドワーク	
11	フィールドワーク③	尼崎市杭瀬商店街フィールドワーク	授業の復習として、フィールドワークの実態調査内容の整理とまちづくりへの意見や考えをレポートにまとめ、次の授業の予習とします（約4時間）
12	まとめ①	フィールドワークの振り返りと各自の気づきや意見をレポート発表します。	
13	まとめ②	グループワークにより杭瀬商店街の活性化についての意見をまとめます。また、未来を感じるまちづくりの内容について議論しまとめます①	
14	まとめ③	グループワークにより杭瀬商店街の活性化についての意見をまとめます。また、未来を感じるまちづくりの内容について議論しまとめます②	
15	まとめ④	杭瀬商店街の活性化についての意見と未来を感じるまちづくりについての提案をグループごとに発表します。	授業の復習として、各自の意見とグループ発表のまとめをします。（約3時間）
成績評価の基準と方法		評価基準：A評価90%以上、B評価80%以上89%以下、C評価70%以上79%以下、D評価60%以上69%以下、F評価60%未満とする。	

	評価方法：まとめ①各自発表のレポート提出（50％）まとめ④グループワーク発表内容（50％）で評価する。
教科書	教科書の使用はなし。配布資料によって進める。
参考図書	授業内で適宜紹介するが、関心のある自治体の総合計画や観光振興計画書を事前に見ておくこと。
授業に関する質問等の方法	各授業の最初と最後に質疑時間を設ける。それ以外の時間は講師あてメールにて対応する。
備考	履修希望者が多数の場合はクラス増設は行わず、選抜により人数を制限する場合がある。その場合現代社会学部生および観光ビジネス（2023年度入学生は観光・地域マネジメント）メジャー希望者を中心に選抜することもある。選抜に漏れた場合は次年度以降に受講してもらいたい。 正当な理由なき遅刻、途中退出、私語、携帯電話の操作は厳禁とする。 フィールドワークは、尼崎市杭瀬商店街現地集合を予定しているため交通費が発生する。（詳細は授業で連絡をする）
短大同時開講使用欄	

授業開講年度	2025	開講キャンパス	さくら夙川キャンパス
開講学期	秋学期	開講曜日・時限	月曜3限
科目コード	ZI0305	授業コード	45486
レベルナンバー	200	配当年次	カリキュラムにより異なります。
授業科目名	政策学概論		
担当教員名【代表】	鈴木 朋美		
担当教員名			
授業形態	講義		
授業方法	対面授業		
単位数	2.0		
ディプロマポイント評価観点(※本科目がどの項目に該当しているかを示す)			
Knowing			
(知識とリテラシー)	教養と専門知識【DP1】	○	知識・情報を活用する力【DP2】
Doing			
(実践力)	国際感覚【DP3】		対人基礎力【DP4】
	対自己基礎力【DP5】		対課題基礎力【DP6】
Being			
(信念と志)	豊かな人間性と肯定的自己概念【DP7】		社会的責任【DP8】
授業の目的	政策提案と直結した知識の習得を目指すことを目的とします。地域の課題解決方法について学ぶことで、他の科目での学びに新たな意味を見つけることができます。政策は、行政だけのものではありません。先入観のない若い人たちが社会を見て考えて、新しい時代を切り開く力をつけましょう。		
到達目標	政策形成に必要な観点や知識を学ぶこと。他者の意見を聴きながら自分の意見をまとめられること。課題をネガティブに考えないこと。ユニークな対応策やアイデアを思いつく発想力や感性がこれからの時代に求められていることを理解すること。社会をリードできる前向きなエネルギーや創造性を育むこと。		
授業概要	政策を学ぶために必要な基本知識を学習します。前半は、政策の概要、後半は政策形成の過程を学び、そこから導き出される論点について考察します。		
課題レポート等	最終課題と期中の小レポートを課します。		
フィードバックの方法について	○授業レポートのフィードバック ○グループ発表についての質疑応答・講評		
授業時間外学習	授業の予習、復習および参考図書を読んで学習してください。		
授業回数	主題	概要	授業時間外学習(学習内容・時間)
01	オリエンテーション	授業の目的、進め方、評価の方法等についてのガイダンスし、本授業での学習内容を理解します。	授業の予習と復習,参考文献の学習【授業時間外学習時間1時間】
02	社会との関わりを考える	日常生活すべてが社会の中の出来事です。社会とは何か、それがどのように自分たちと関わっているのかを学習します。	授業の予習と復習,参考文献の学習【授業時間外学習時間1時間】
03	社会の課題解決とモラルと制度	社会問題や地域課題の解決のためにはどうしたらいいかについて、具体事例をもとに考えていきます。	授業の予習と復習,参考文献の学習【授業時間外学習時間1時間】
04	人の心と行動：ルールが存在について	社会にルールはなぜ必要なのかを考えます。	授業の予習と復習,参考文献の学習【授業時間外学習時間1時間】
05	政策とは何か：体系と類型	政策は、政策、施策、事業という3つの大きなカテゴリで把握・議論されます。また政策の内容によって分類することもあります。政策について学ぶ準備の仕上げとしてこれらを理解しましょう。	授業の予習と復習,参考文献の学習【授業時間外学習時間1時間】
06	具体的な政策の例「観光政策」	実際に実施されている政策を例に用いて、その背景や目的などから解きほぐします。一例目：観光に関する政策	授業の予習と復習,参考文献の学習【授業時間外学習時間1時間】

07	具体的な政策の例「少子化対策」	実際に実施されている政策を例に用いて、その背景や目的などから解きほぐします。二例目：少子化対策の政策	授業の予習と復習,参考文献の学習 【授業時間外学習時間1時間】
08	中間まとめ「政策の学びの広がり」	政策研究における幅広い視点について紹介します。各論について概観し、後半のポイントを紹介していきます。	授業の予習と復習,参考文献の学習 【授業時間外学習時間1時間】
09	政策課題について考える	社会の課題とはいったい誰が決めたものでしょうか？身の回りの問題や課題が、政策対応すべき事項として取り上げられるまでをひも解いていきます。	授業の予習と復習,参考文献の学習 【授業時間外学習時間1時間】
10	政策形成について考える	対応すべき課題や問題について合意ができたとしても、その対応策は必ずしもひとつだけではありません。どのような政策にすればよいのか、それがどう決まってくるのかを考えます。	授業の予習と復習,参考文献の学習 【授業時間外学習時間1時間】
11	政策の実施と評価について考える	政策はできたら終わりではありません。その政策が狙い通りの効果をもたらしたかどうかを評価します。検証とフィードバックはどのようにしているのか、政策評価について学習します。	授業の予習と復習,参考文献の学習 【授業時間外学習時間1時間】
12	説明責任とエビデンス	人々が政策のプロセスに参画するためには、広く公開されていることと、明確な情報発信のもと共有がなされていることが必要です。情報共有の方法や効果検証に基づく政策形成（EBPM）はどのように行われているのかを学びます。	授業の予習と復習,参考文献の学習 【授業時間外学習時間1時間】
13	コミュニケーションツールとしての白書	政府の発刊する白書は、これまで学んできた政策の様々な情報が凝縮された正しい情報源となっています。実際に公表されている白書を取り上げ、その内容や数値を確認しながら学びを振り返ります。	授業の予習と復習,参考文献の学習 【授業時間外学習時間1時間】
14	地域と政策	自治体は、県や市を対象に政策の企画者になると同時に、国の政策のユーザーでもあります。自治体における政策へのかかわり方を考察します。	授業の予習と復習,参考文献の学習 【授業時間外学習時間1時間】
15	まとめ	授業を通して学んだことの振り返ります。改めて、なぜ、誰のために政策が必要なのか考え、日常生活を通じて政策への皆さんの関わり方を整理して全体のまとめとします。	授業の予習と復習,参考文献の学習 【授業時間外学習時間1時間】
成績評価の基準と方法		平常点（出席点，討論参加態度），小レポート，最終レポートを総合して評価します。配点はおおむね，60：20：20を目安とします。 A評価：90点以上 B評価：80点以上 C評価：70点以上 D評価：60点以上	
教科書		指定はありませんが，次の文献を参照する予定です。 秋吉貴雄，伊藤修一郎，北山俊哉（2020）「公共政策学の基礎[第3版]」有斐閣 ジョエル・ベスト（2020）「社会問題とは何か」筑摩書房	
参考図書		・井手英策，宇野重規，坂井豊貴，松沢裕作（2017）「大人のための社会科」有斐閣 ・村上弘，佐藤満（2009）「よくわかる行政学」ミネルヴァ書房 ・田中治彦，枝廣 淳子，久保田 崇 編（2019）「SDGsとまちづくり」学文社 ・広井良典（2019）「人口減少社会のデザイン」東洋経済新報社 他，授業で適宜案内します。	
授業に関する質問等の方法		事業前後に質問の時間を設けます。授業時間外の質問は講師あてメールで受け付けます。	
備考			
短大同時開講使用欄			

授業開講年度	2025	開講キャンパス	さくら夙川キャンパス
開講学期	秋学期	開講曜日・時限	水曜4限
科目コード	ZI0496	授業コード	45526
レベルナンバー	300	配当年次	カリキュラムにより異なります。
授業科目名	コミュニティデザイン論		
担当教員名【代表】	鈴木 朋美		
担当教員名			
授業形態	講義		
授業方法	対面授業		
単位数	2.0		
ディプロマポイント評価観点(※本科目がどの項目に該当しているかを示す)			
Knowing			
(知識とリテラシー)	教養と専門知識【DP1】		知識・情報を活用する力【DP2】
Doing			
(実践力)	国際感覚【DP3】		対人基礎力【DP4】
	対自己基礎力【DP5】		対課題基礎力【DP6】
Being			
(信念と志)	豊かな人間性と肯定的自己概念【DP7】		社会的責任【DP8】
授業の目的	人口減少、少子高齢化など地域課題は多岐にわたります。地域や場所を舞台として、人々がつながり、コミュニティを元気にして地域を継承していく行動が求められている中でコミュニティデザインが注目されています。人の気持ちを揺さぶる「こと」や「もの」で多様な人々をつないで、動きを創出している地域マネジメントの実例を学び、グループワークでコミュニティデザインのプロセスを疑似体験し地域運営への理解と関心を高めます。		
到達目標	コミュニティとデザインを学び、従来の住民参加型のまちづくりとコミュニティデザインによる地域づくりの違いやの意義を理解すること。グループワーク等を通じて、意見や考えを引き出すことの重要性と多様性を理解すること。地域資源や課題を把握しコミュニティを観察する着眼点をもつこと。コミュニティデザインの実践プロセスを分解し、疑似体験を通して、コミュニティデザインの一連を理解すること。		
授業概要	コミュニティを取り巻く現状と課題を整理し、人のつながりをデザインするまちづくりの必要性を理解します。コミュニティデザインの実例やゲストスピーカーによる実践例により、コミュニティデザインのプロセスを学び、グループワークで疑似体験をして、これからの地域運営に必要なスキルを認識します。様々な意見を出すこと、聴くことが重要であるため、グループワークを重視します。		
課題レポート等	グループワークによる学びを重視します。そのため、特定の課題レポートは想定しませんが、必要に応じて実施する場合があります。授業内で適宜告知します。		
フィードバックの方法について	授業レポートのフィードバック グループ発表についての質疑応答・講評		
授業時間外学習	授業の予習・復習 授業レポートの作成		
授業回数	主題	概要	授業時間外学習(学習内容・時間)
01	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について説明し、コミュニティデザインの意義や生じた背景を学びます。	授業の復習(1時間)
02	コミュニティについて①	「コミュニティ」の歴史や概念を学び、暮らしの基盤であるコミュニティの重要性を理解します。	授業の復習(1時間)
03	コミュニティについて②	「コミュニティ」での、つながりに着目します。講義やグループワークを通じて理解を深めます。	授業の復習(1時間)
04	コミュニティについて③	コミュニティを重要視する制度的取り組みに地域包括ケアシステムがあります。安全安心な社会づくりとして高齢化が進展する地域社会運営には欠かせないものとなっています。地域包括ケアシステム	授業の復習(1時間) 授業の予習(1時間) コミュニティの整理、グループワーク準備

		における住民参加の実例を学習します。コミュニティデザインとの関連や違いを理解しましょう。	
05	コミュニティについて④	これまでの学習から、コミュニティの意義や求められる役割をグループワークで話し合い整理してレポートにまとめます。	授業レポート作成 (2時間)
06	デザインについて①	「デザイン」について理解を深めるため、アートとデザインの違いを説明します。デザイン思考の特長や意義を画像等を用いておこないます。グループワークで各自の解釈や意見を出しあい、互いの意見の存在を認めて学びを深めましょう。	授業の復習 (1時間)
07	デザインについて②	コミュニティデザインにおける「デザイン」の意義と作用を理解します。コミュニティそのものが単体で存在する場合と、コミュニティデザインとなることについて、その違いを理解し整理します。	授業の復習 (1時間30分)
08	コミュニティデザイン事例①	コミュニティデザインの実例を用いて地域運営の手法を理解します①	授業の復習 (1時間)
09	コミュニティデザインの実例②	コミュニティデザインの実例を用いて地域運営の手法を理解します② (ゲストスピーカー 兵庫県庁西宮土木事務所所長補佐守宏美氏)	授業の復習 (1時間)
10	コミュニティデザインの実例③	コミュニティデザインの実例を用いて、地域運営の手法を理解します③	授業の復習 (1時間)
11	コミュニティデザインの過程と手法を理解する	コミュニティデザインの実例から、ヒヤリング、ワークショップ、チームビルディング、活動支援とした過程やファシリテーションの役割を整理して理解します。コミュニティとコミュニティデザインの違いやコミュニティデザインの過程を整理し、まとめレポートを作成します。	授業の復習とレポート作成 (2時間)
12	コミュニティデザインに挑戦①	課題に対応するコミュニティデザイン案をコミュニティデザインの手法やプロセスを踏まえてグループワークで検討します。	グループワークの記録確認と次回講義の準備 (1時間)
13	コミュニティデザインに挑戦②	引き続き、グループワークでの検討を行います。	グループワークの記録確認と次回講義の準備 (1時間)
14	コミュニティデザインのまとめ	グループの考えをまとめます	これまでのグループワークの整理と発表準備 (2時間)
15	全体まとめ	各グループで議論したコミュニティデザイン案を発表します	発表のふりかえり (2時間)
成績評価の基準と方法		評価基準：A評価90%以上、B評価80%以上89%以下、C評価70%以上79%以下、D評価60%以上69%以下、F評価60%未満とします。 評価方法：授業レポートの内容 (50%)、グループ発表 (50%) で評価します。	
教科書		教科書は使用しません。授業は配布のレジюмеや資料で進めます。	
参考図書		山崎亮著「コミュニティデザインの時代」じぶんたちで「まち」をつくる その他は、適宜、指示します。	
授業に関する質問等の方法		講義前後に質問の時間を設けます。授業時間外はメールで受け付けます。	
備考			
短大同時開講使用欄			

授業開講年度	2025	開講キャンパス	さくら夙川キャンパス
開講学期	秋学期	開講曜日・時限	木曜2限
科目コード	ZI0490	授業コード	45523
レベルナンバー	300	配当年次	2
授業科目名	地域ブランド論		
担当教員名【代表】	海老 良平		
担当教員名	鈴木 朋美		
授業形態	講義		
授業方法	対面授業		
単位数	2.0		
ディプロマポイント評価観点(※本科目がどの項目に該当しているかを示す)			
Knowing			
(知識とリテラシー)	教養と専門知識【DP1】	○	知識・情報を活用する力【DP2】
Doing			
(実践力)	国際感覚【DP3】		対人基礎力【DP4】
	対自己基礎力【DP5】	○	対課題基礎力【DP6】
Being			
(信念と志)	豊かな人間性と肯定的自己概念【DP7】		社会的責任【DP8】
授業の目的	地域ブランドとは、その土地特有の農産物や食文化などの資源をブランド化することで、他地域と差別化を図る地域活性化策の一つである。この授業はさくら夙川キャンパスの立地する兵庫県内の各地域の地域ブランド戦略への理解を深めるとともに、地域が直面している課題を理解し、その解決策を探ることができる知識や能力を修得していくことが目的となる。		
到達目標	○地域ブランドについて、事例を交えながら説明できる。 ○地域社会が置かれている課題を理解し、解決案や方策を考えることができる。		
授業概要	現在、兵庫県では観光や産業振興による地域活性化策として、兵庫五国の魅力のPRを積極的に行っている。兵庫五国とは、明治時代以降に兵庫県が今のよう形になる前に、この地域を構成していた摂津、播磨、丹波、但馬、淡路の5つの国のことである。この授業では兵庫五国の各地域のゲストからそれぞれのブランド力について学び、さらに各地域が抱える課題をグループワークを用いながら考えていく産官学連携PBL授業である。		
課題レポート等	ゲスト講師によって提示された課題に関する授業レポートの提出を課す。		
フィードバックの方法について	○授業レポートのフィードバック ○グループ発表についての質疑応答・講評		
授業時間外学習	○授業の予習・復習 ○授業レポートの作成		
授業回数	主題	概要	授業時間外学習(学習内容・時間)
01	オリエンテーション	授業の概要、進め方を説明する。	
02	兵庫県のなりたちー兵庫五国とは	授業のテーマとなる兵庫五国の概要を学ぶ。	授業の復習(2時間) 但馬地域の予習(2時間)
03	兵庫五国の地域ブランド(1) 但馬	豊岡市などで構成される但馬地域の現状と課題を学ぶ。 ゲストスピーカー：朝野泰昌氏(朝野屋・麒麟のまち観光局)	授業レポートの作成(4時間)
04	但馬地域の課題を議論する	グループワーク 但馬地域の課題についてグループで議論する。	グループディスカッションのふりかえり(2時間) 丹波地域の予習(2時間)
05	兵庫五国の地域ブランド(2) 丹波	丹波篠山市などで構成される丹波地域の現状と課題を学ぶ ゲストスピーカー：酒井篤史氏(丹波篠山市ブランド戦略課)	授業レポートの作成(4時間)
06	丹波地域の課題を議論する	グループワーク 丹波地域の課題についてグループで議論する。	グループディスカッションのふりかえり(2時間) 播磨地域の予習(2時間)

07	兵庫五国の地域ブランド (3) 播磨	姫路市などで構成される播磨地域の現状と課題を学ぶ。 ゲストスピーカー：玉田恵美氏 (NPO法人姫路コンベンションサポート)	授業レポートの作成 (4時間)
08	播磨地域の課題を議論する	グループワーク 播磨地域の課題についてグループで議論する。	グループディスカッションのふりかえり (2時間) 淡路地域の予習 (2時間)
09	兵庫五国の地域ブランド (4) 淡路	淡路市などで構成される淡路地域の現状と課題を学ぶ。 ゲストスピーカー：真木信茂氏 (道の駅あわじ代表館長)	授業レポートの作成 (4時間)
10	淡路地域の課題を議論する	グループワーク 淡路地域の課題についてグループで議論する。	グループディスカッションのふりかえり (2時間) 摂津・阪神地域の予習 (2時間)
11	兵庫五国の地域ブランド (5) 摂津・阪神	神戸市などで構成される摂津・阪神地域の現状と課題を学ぶ。 ゲストスピーカー：未定	グループディスカッションのふりかえり (2時間) 摂津・阪神地域の予習 (2時間)
12	摂津・阪神地域の課題を議論する	グループワーク 摂津・阪神地域の課題についてグループで議論する。	グループディスカッションのふりかえり (2時間) 発表の準備 (2時間)
13	グループディスカッションのまとめ	グループワーク これまでの議論をまとめてプレゼン用資料を作る。	グループディスカッションのふりかえり (2時間) 発表の準備 (2時間)
14	グループ発表 (1)	プレゼンテーション 各グループで議論した成果を発表する。	発表のふりかえり (2時間) 発表の準備 (2時間)
15	グループ発表 (2)	プレゼンテーション 各グループで議論した成果を発表する。	発表のふりかえり (2時間)
成績評価の基準と方法		○評価基準：A評価90%以上、B評価80%以上89%以下、C評価70%以上79%以下、D評価60%以上69%以下、F評価60%未満とする。 ○評価方法：兵庫五国の各課題の授業レポートの内容 (80%)、グループディスカッションおよび発表の内容 (20%) で評価する。	
教科書		教科書は使用しない。授業は配布されるレジュメや資料等によって進められる。	
参考図書		適宜、指示する。	
授業に関する質問等の方法		授業後はメールで受け付ける。	
備考		○履修希望者が多数の場合はクラス増設は行わず、選抜により人数を制限する場合がある。その場合現代社会学部生および観光ビジネス (2023年度入学生は観光・地域マネジメント) メジャー希望者を中心に選抜することもある。選抜に漏れた場合は次年度以降に受講してもらいたい。 ○正当な理由なき遅刻、途中退出、私語、携帯電話の操作は厳禁とする。 【本授業は、実務経験を有する教員が担当し、当該の経験を活かした内容を教授します。】	
短大同時開講使用欄			

2025年度春学期 授業アンケート集計結果(科目別)

授業コード : 40555

授業科目名 : まちづくり論 (サマースクール)

担当教員名 : 鈴木 朋美

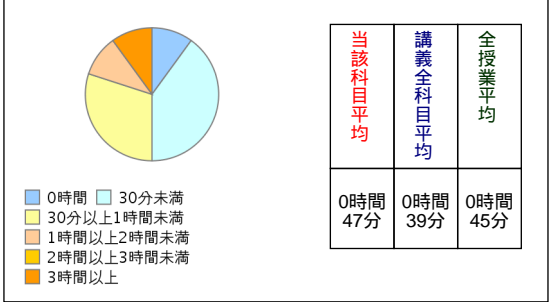
受講者数 : 17名

回答者数 : 10名

A. 「アンケートに答えるにあたって」に関する各設問(1~2)

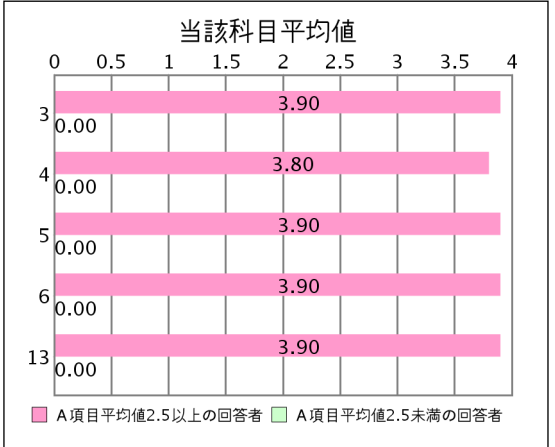
設問項目	1	2	3	4	平均値		偏差値
	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまり そう 思わない	4 そう 思わない	当該科目	講義全科目	
1 あなたは、この授業によく出席しましたか？	10	0	0	0	4.00	3.73	65.8
2 あなたは、予習・復習など自主的な学習努力をしましたか？	6	4	0	0	3.60	3.25	61.4
1~2合計・平均値	16	4	0	0	3.80	3.49	65.1

E-14. この授業についての1週間あたり平均の授業外学習時間



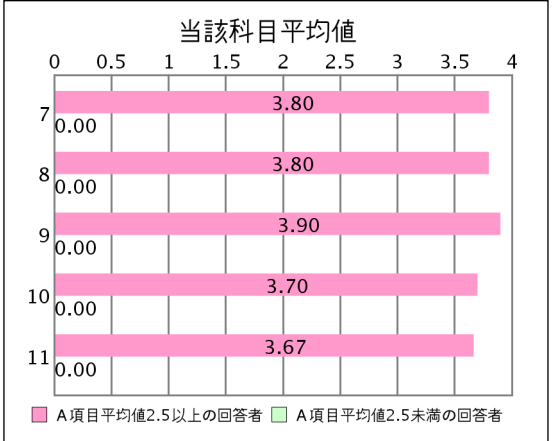
B. 授業への評価に関する各設問(3~6,13)

設問項目	1	2	3	4	平均値		偏差値
	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまり そう 思わない	4 そう 思わない	当該科目	講義全科目	
3 この授業に対する教員の熱意を感じましたか？	9	1	0	0	3.90	3.71	60.9
4 授業の内容は授業概要(シラバス)に沿っていましたか？	8	2	0	0	3.80	3.72	54.0
5 教材・資料の提示は適切でしたか？	9	1	0	0	3.90	3.71	58.9
6 授業の組み立て、時間配分は適切でしたか？	9	1	0	0	3.90	3.67	59.5
13 あなたは、この授業を全体としてどう評価しますか？	9	1	0	0	3.90	3.54	63.9
3~6,13合計・平均値	44	6	0	0	3.88	3.67	61.9



C. 授業の効果に関する各設問(7~11)

設問項目	1	2	3	4	平均値		偏差値
	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまり そう 思わない	4 そう 思わない	当該科目	講義全科目	
7 あなたは、授業内容をよく理解することができましたか？	8	2	0	0	3.80	3.46	62.5
8 自発的な学習が促されましたか？	8	2	0	0	3.80	3.31	67.9
9 有用な知識や情報を修得できましたか？	9	1	0	0	3.90	3.62	63.2
10 この授業内容をさらに勉強したいという意欲がわきましたか？	7	3	0	0	3.70	3.39	61.0
11 この授業を履修して、思考力、行動力、表現力などといったC-PLATS能力が伸びたと思いますか？	4	2	0	0	3.67	3.38	60.3
7~11合計・平均値	36	10	0	0	3.78	3.44	64.7
1~11,13合計・平均値	96	20	0	0	3.83	3.55	65.2



D. C-PLATS効果について

12	伸長したと思う能力 (C-PLATS)	平均										
		3	4	4	1	2	3	2	2	3	1	2.5
		60.0%	80.0%	80.0%	20.0%	40.0%	60.0%	40.0%	40.0%	60.0%	20.0%	-
	シラバス設定値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-

各設問の回答値は人数。
平均値は、1=4ポイント、2=3ポイント、3=2ポイント、4=1ポイントで集計し、算出したもの。
偏差値は、授業形態「講義」「演習」「実技」「実験」「実習」の中での当該科目の数値。
授業外学習時間の全科目・全授業平均は全科目・全授業の単純平均値。

- 【思考基盤能力】
 - 分析力
 - 創造力
 - 計画力
 - 論理的思考力
- 【行動基盤能力】
 - プレゼンテーション力
 - 行動力
 - コミュニケーション力
 - リーダーシップ
- 【社会的基盤能力】
 - チームワーク
 - 社会的責任

2025年度春学期 授業アンケート集計結果(科目別)

授業コード : 40555
授業科目名 : まちづくり論 (サマースクール)
担当教員名 : 鈴木 朋美

受講者数 : 17 名
回答者数 : 10 名

あなたが良いと思った点と改善してほしいと思った点を自由に記述してください。

A 良かった点

- ・ まちづくり論の授業では、実際の地域の事例や、そこで暮らす人々の声を通して「まちをつくる」ということの本当の意味を知ることができました。決して理想や計画だけにとらわれるのではなく、人の思いや関わりの積み重ねがまちを動かしていくという姿勢が、一つひとつの講義から伝わってきました。誰か特別な人がまちを変えるのではなく、「自分にもできることがある」と自然に思わせてくれるような内容で、とても心に残りました。

B 改善してほしい点

- ・ なし